

現代における和風認識の実証的研究

日大生産工（院） 植向 祐治
日大生産工 浅野 平八

0. はじめに

「現代における和風」とは何かが問われている。^{注1)}「和風」という言葉は、明治期に創出され、戦後に一般化した。また、時を経て社会的事情が大きく変わった今では、意味内容が変化している。情報化社会の影響を大きく受けた「今の和風」は、「洋風」の対義語として創られた「和風」とは区別をする必要もある。

本研究では、「和風」の概念を整理した上で、「和風」をキーワードにweb調査を行い、現在捉えられている「今の和風」の用語を抽出することから始める。そして、京都と東京のデザインサーベイから、建築における「今の和風」とは何かを実証していく。

1. 「和風」の概念

ここで対象とする「和風」は、近現代に「洋風」と対置された「和風」である。しかし、佐藤道信の研究によれば、「日本的」の意味で使われている「和風」は、戦前まで一般的な用語ではなかった。^{注2)}それ以前は、「おだやかな風。暖かな風。春風。」（広辞苑第五版）のように「風」の意味が、既存であったと述べている。それまで、意識していなかったものを意識し始めると、そのイメージは著しく変わっていくことがわかる。

同じようなことは、鎌倉時代にもあった。従来と違う建築が、「宋」から入って来た際に、新しきものは「唐様」または「天竺様」とし、従来のもは「日本様（現在の和様）」と用語を付けている。しかし、その「日本様」と言われていたものも、奈良時代に「唐」から伝わった仏教建築である。また、伊藤延男によれば、

これらの「唐様」「天竺様」「日本様」の用語がすべてそろえるのは、江戸中期という。^{注3)}

このように、今の「和風」も同様に、「日本」的なるもの、「和」的なるものは、時代と共に変化している。

2. Web を用いた和風認識の調査

2-1. 調査概要

情報社会における「和風」に対するイメージは、以前と変わっている。そこで、建築における「和風」のイメージを探り、現時点での状況を整理し分析する。

本章では、情報化社会の担い手である情報端末、つまりweb（インターネット）を用いた調査を行う。媒体として、検索エンジン（google）を用いた。

まず、検索エンジン（google）で、キーワード「和風」を検索し、上位300件をリストアップする。その後、一つのサイトにつき、調査所要時間30分～60分程度とし、そのサイトで何を和風としているかを挙げていく。その後、挙げていった「和風」のキーワードを「ファサードにあるもの」「屋内にあるもの」「地域」「素材」「生活」「文化・歴史」「その他」の6種7項目で分類をする。

リストアップ日時：2004/12/19

対称：検索エンジン（google）で該当した上位300件（約2,570,000件中）

調査日時：2004/12/19～2005/2/31

Verifiable research of the 'Wafu' realization in the present-day.

Yuji UEMUKI, Heihachi ASANO

2-2. 種別における割合

全般的に「和風」という言葉の持つイメージをfig.1で見えていくと、「リンク集」を除く上位三種別、「shop」「宿泊施設」「飲食店」で全体の56%を占めている。これは、「和風」のイメージが、多くの商業目的に利用されていることを示している。また、「和風」という言葉と同時に「四季」「懐かしい」「落ち着く」といった言葉を使い文句にしているサイトが多くあった。「和風」と、それにつながる常套文句で、イメージを上げている。

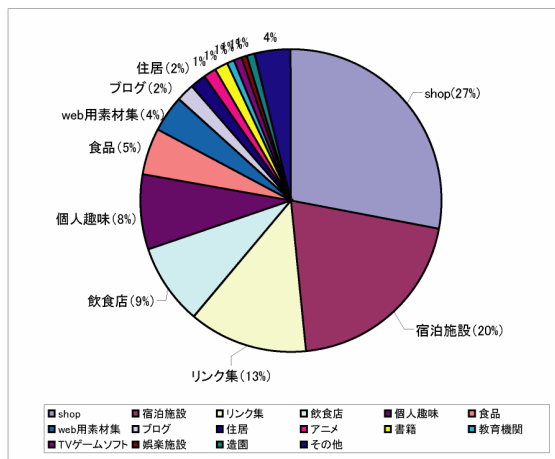


fig. 1 web サイト種別における割合

2-3. 地名による「和風」のイメージ

地名で「和風」をイメージさせているサイトは58サイトあった。その中で、一番多かったものは、京都を指すもので31件(84件中)である。これは、京都の持つ「和風」のイメージの強さがよくわかる。その他に注目すべき点は、「日本」の14件と、アジアを指すものの10件(日本を含まず)である。本来は、日本の中にあつた「和風」が、日本それ自体をさすものになっている。つまり、日本の中に「和風」があるのではなく、「和風」の中に日本があるのである。

-その他の地名-

京都、京、讃岐、伊豆大島、宇治、奄美、沖縄、鎌倉、関西、貴船、祇園、江戸、浅草、倉敷、大原、大和、丹波、築地、津和野、土佐、奈良、日光、日本、日本海、熱海、富良野、伏見、北海、琉球、和倉、アジア、韓国、インドネシア、タイ、ハワイ

2-4. 「建築の遺伝子」による「和風」のイメージ

まず、「建築の遺伝子」をファサードの項目と、屋内の項目に分け、集計を行った。ここでの「建築の遺伝子」とは、建築を構成し、誰もが確認できる物理的な因子の事を指す。構法の如何は問題にしていない。

街路から確認することの出来ない項目の分類については、「座敷」(該当45回)と「畳」(該当42回)が、他を大きく引き離し、「和風」のイメージを強く与えていることが分かった。その他には、「床の間」「掛け軸」「襖」「囲炉裏」が該当10回を超えている。

次に、街路から確認することの出来る「ファサード」の項目を分類すると、該当回数の並びに、変化があることがわかった。「遺伝子」の数は、全部で69項目であるが、4回該当した項目と10回該当した項目の間に大きな差が表れている。そこで、本研究ではこの10回以上該当した遺伝子(table 1)により、3章で収集したデータを分類する。

table 1 10回以上該当した遺伝子

順位	遺伝子名	該当回数
1	行灯	27
2	障子	23
3	暖簾	18
4	提灯	17
5	格子	15
6	瓦	13
7	切妻屋根	13
8	真壁	12
9	土壁	12
10	入母屋	12
11	簾(葦簾)	11
12	灯籠	10

3. デザインサーベイ

3-1. 調査概要

-調査日程-

平安京大路調査：2005/01/22

江戸城外堀内調査：2005/02/01～2005/02/09

本調査は、「平安京大路調査並びに江戸城外堀内調査」を元にする。ここでの調査は、京都と東京の都市の成り立ちを考え、「平安京」と「江戸城」に注目し場所の選定を行った。そして、「平安京」は計画当時「大路」と言われていた道を、「江戸城」では外堀内の江戸時代か

ら続く道をデザインサーベイし、「京都の遺伝子」としてデータを収集した。^{注4)}

この調査は、平安京大路調査 10 名、江戸城外堀内調査 4 名で行い、調査員は全員、山本良介の著書^{注5)}を援用して、基礎研究を行っている。その著書の中に 60 項目の「遺伝子」が挙げられているので table 2 に示す。また、web 調査で収集したデータとの照合も同時に示す。

table 2 60 項目の遺伝子と web 調査との照合

番号	遺伝子	web調査との照合	番号	遺伝子	web調査との照合
1	瓦屋根	○	31	犬走り	-
2	卯建	-	32	犬矢来	○
3	越屋根	○	33	たや垣	-
4	煙突	-	34	竹矢来	-
5	忍返し	-	35	硝子戸	-
6	棟換気	-	36	玄関障子戸	○
7	妻壁	-	37	面格子・格子戸	○
8	蔵換気口	-	38	出窓	○
9	虫籠窓	○	39	腰壁	○
10	虫籠飾り窓	-	40	床下換気口	-
11	飾り窓	-	41	水瓶	-
12	下地窓・火燈窓	○	42	ごもく箱	-
13	蔵窓	-	43	石垣	○
14	裳階	-	44	貼り紙	-
15	越塀	-	45	ショーウィンドー	-
16	袖壁	-	46	竹樋	○
17	漆喰	○	47	ドア金物	-
18	土壁	○	48	蝶番金物	-
19	紅殻塗り	-	49	土人形	-
20	なまこ壁	○	50	幕掛け	-
21	塀壁建築	-	51	腕木	-
22	塀	○	52	持送り	-
23	雨戸	-	53	地藏尊	○
24	暖簾	○	54	献灯	○
25	簾	○	55	松飾り	-
26	行燈	○	56	注連縄	○
27	看板	-	57	通り抜け路地	○
28	踏み石	○	58	突き当たり路地	○
29	土間	○	59	物干台	-
30	バッテリー床几	-	60	郵便受	-

3-2. 京都の遺伝子

「京遺伝子のゆくへ」^{注4)}では、京都の遺伝子が現在どのような状況になっているのか、様々な視点から分析した。すでに、単なる表象的なものに変化しつつあるのか、または、表象的なものこそが、これからの「遺伝子」の残り方なのかを考察した。

3-3. データの分類

対象となる写真は、合計 1,190 枚である。(table 3) 2-3 で、「和風」のイメージにおける京都のイメージが重要なことが明らかとなった。そこで、2-4 で挙げた 12 の項目を用い、データを分類していく。また、平安京に関しては、このデザインサーベイの妥当性を知る為、縦軸と横軸に分けて分類を行っている。(table 4)

table 3 「平安京大路江戸城外堀内調査」写真枚数

	平安京横軸	平安京縦軸	江戸城	計
写真枚数	435	426	329	1190

table 4 「平安京大路・江戸城外堀内調査」の分類結果

遺伝子番号	遺伝子	平安京横軸	平安京縦軸	江戸城	総数
a1	格子	190	223	151	564
a2	行灯(行燈)	8	17	84	109
a3	暖簾	25	20	75	120
a4	提灯	11	11	18	40
a5	簾	52	80	22	154
a6	灯籠	7	8	25	40
a7	障子	33	18	33	84
a8	瓦	354	354	123	831
a9	切妻	208	192	72	472
a10	入母屋	72	51	21	144
a11	真壁	240	236	68	544
a12	土壁	225	263	91	579

3-4. データ分析

table 4 の分類を見ていくと、「格子」「瓦」の項目は「平安京大路」「江戸城外堀内」の両者とも多く該当している。一方、「行灯」「暖簾」「切妻」「真壁」「土壁」は、その違いが大きく現れた。「行灯」「暖簾」は「江戸城外堀内」で多く現れ、「切妻」「真壁」「土壁」は「平安京大路」で多く現れている。

2-4 の「10 回以上該当した遺伝子」の該当順位と、ここでのデータを比較すると、web 調査における「和風」のイメージは「平安京大路」よりも「江戸城外堀内」の方が近いことがわかる。これは、2-2 で述べたように、「和風」イメージを利用した商業の割合が高いことと、「江戸城外堀内」において、その商業利用率の高さが同調しているからである。また、2-3 の地名による「和風」のイメージには反して、「江戸」つまり「東京」の方が web でいう「和風」のイメージに近いのである。また、2-3 で東京を指すものは 6 件であった。

両者とも多く該当したものに、「瓦」「格子」がある。「瓦」は、両者とも 1 位 2 位に入っているが、「格子」は、「江戸城外堀内」が 1 位で、「平安京大路」では 4 位 5 位である。これは、「東京」の方が、「和風」を表現する上で「格子」を重要なものと位置づけていることを表している。

Web 調査における該当回数一位の「行灯」についても見ていくと、「平安京大路」では 10 位と 11 位であるが、「江戸城外堀内」では 4 位である。これも、簡単に「和風」に見せることが出来る「遺伝子」といえる。

次に fig. 2 を見ていくと、「平安京大路調査」の「横軸」と「縦軸」の歩合が近似していることがわかる。これは、このデザインサーベイの妥当性が得られたことを示している。また、

「平安京大路」の場合は、主に「格子」「瓦」「切妻」「真壁」「土壁」の5つの「遺伝子」に集中しているにも関わらず、「江戸城外堀内」の場合は、9%以上の「遺伝子」が7つもあり、使用が分散していると言える。つまり、「平安京大路」は「遺伝子集束型」であり、「江戸城外堀内」は「遺伝子拡散型」といえる。これは、「平安京大路」が「和風」のイメージの強い遺伝子を拡散しない一方で、「江戸城外堀内」は「和風」のイメージが強い遺伝子をかき集めて使用していると言える。

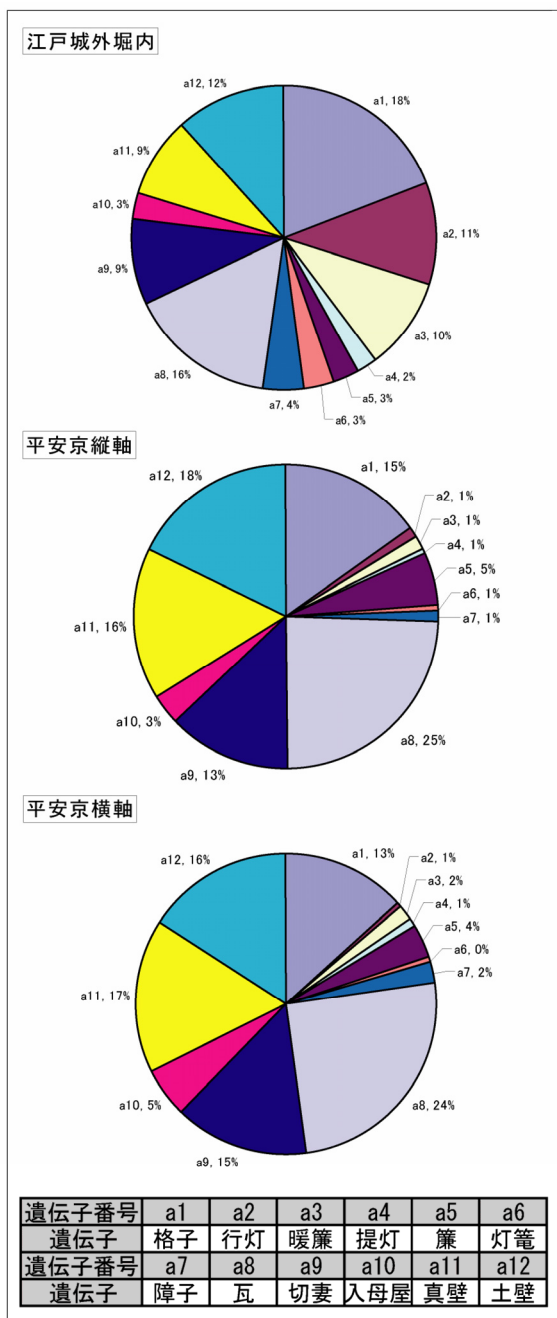


fig. 2 地域毎における歩合

4. まとめ

「今の和風」とは、現在の社会が及ぼしている現象を反映し、変化している姿を写し出している。本研究で指摘した「和風」は、かつて「洋風」が日本に入ってきた際の「擬洋風」と同じように、「擬和風」という状態にあるのではないかと考える。

<注>

注1) 第24回住総研シンポジウム「和風の誕生」－視覚化された日本－(2004.7.9)によって討議された内容である。シンポジウムの記録は、片山和俊編、「すまいろん秋号(通巻72号)別冊」,住宅総合研究財団発行,(2004.10)に収録されている。

注2) 佐藤道信,“内外”“公私”のなかの「和」と「日本」,住宅総合研究財団研究論文集No.31(2004)

注3) 伊藤延男,日本建築における和様の展開,日本の美学9,ペリカン社発,pp61~74,(1986)

注4) 京都コミュニティデザインリーグ編,「京都げのむno.5」,京都CDL事務局発行,p105~108,(2005.6)

注5) 山本良介,建築思潮研究所編,京都一建築と町並みの<遺伝子>,建築資料研究所発行

<参考文献>

- 1) 小沢朝江,「和風」の成立—近代皇族邸宅を通してみた近世と)の連続と断絶—,住宅総合研究財団研究論文集No.31 2004,(2005.3)
- 2) 吉見俊哉,リビングルームのなかの「和風」—戦後日本と家電/家族のマイクロ政治学,住宅総合研究財団研究論文集No.31 2004,(2005.3)
- 3) 村井康彦編,公家と武家—その比較文明的的研究,思文閣出版,(1995.1)
- 4) 近藤豊,明治初期の擬洋風建築の研究,理工学社発行,(1998.8)
- 5) 初田亨 藤谷陽悦他,近代和風建築—伝統を超えた世界,建築知識出版,(1992.9)
- 6) 辻成史編,伝統—その創出と転生,新曜社発行,(2003.10)
- 7) 古代学協会・古代学研究所編,平安京提要,角川書店出版,(1994.5)
- 8) 人文社編集部編,古地図ライブラリー 別冊 切絵図・現代図で歩く 江戸東京散歩,近藤和吉発行,(2004.9)
- 9) 文藝春秋編,文藝春秋2004年9月臨時増刊号「和の心 日本之美」,文藝春秋出版,(2004.9)